

## 第2回 実践検討会

令和4年9月27日

○実施園 奈良市立こども園 5歳児

○指導助言 行政スーパーバイザー



### カンファレンスを進めた幼児教育アドバイザーの自己分析

**【研究主題】** 「子どもと子ども、保育者と子ども、みんなつながる楽しさを感じるために保育者が今できることを探る。」

#### **【5歳児ぞうぐみ 活動のねらい】**

- ・自分の思いや考えを出し合いながら、友達と関わって意欲的に遊ぶことを楽しむ。
- ・必要な材料を選び、試したり、組み合わせたりして作ることを楽しむ。

#### **【見てもらいたい視点】**

- ・好きな遊びを遊び、意欲的に遊ぶところ。
- ・友達や保育者に自分の思いを伝え、会話しながらそれぞれの思いを取り入れて遊んでいるところ。
- ・自分なりに工夫したり、試したりしている姿。

#### **【カンファレンスをするにあたっての心構え・事前準備など】**

- ・時間配分を考える。
- ・参加者が意見を出しやすい和やかな雰囲気をつくる。
- ・話す人の意見や考えを受けとめたり共感したりし、自分なりの言葉を添えたり、他の同じような意見を求めたりする。
- ・話が途切れた時には自分の見たことや感じたことを話し、きっかけを作る。
- ・5歳児の3期の特徴を捉えて話を進める。

- ・夢中になって遊ぶ姿はどの場面にあったか。
- ・園の研究主題とねらいを記入しておき、3つの着眼点を模造紙に書き込んでいく。
- ・遊びを3～4に限定はするが、遊びに繋がりがあったり、子どもが生き生きと活動していたりしたことは、話をできる機会をもつようにする。
- ・付箋を使わず、口頭での活発な意見交流にする。
- ・模造紙を使って記録するが、途中でみんなが見える所に貼りだし、活かせるようにする。
- ・記録用紙の作成…学園南こども園の5歳の子どもの研究主題と着眼点3つを子どもの姿・環境・援助に分け、明日につながるヒントは全体にかけて書けるようにした。

### 【カンファレンス】

- 各コーナー 遊びを大きく3つ（ごっこあそび・つくってあそぶ・ドングリ転がし）に分けて話し合う。
- 見てもらいたい視点の3つを（A）（B）（C）で表示する。
  - ・好きな遊びを遊び、意欲的に遊ぶところ。（A）
  - ・友達や保育者に自分の思いを伝え、会話しながらそれぞれの思いを取り入れて遊んでいるところ。（B）
  - ・自分なりに工夫したり、試したりしている姿。（C）
- 話し合いの内容（子どもの姿やつぶやき、環境や援助など）がどの視点のことなのか（A）（B）（C）を書き込むようにする。
- それぞれの遊びの展開や子ども達の意欲的に遊ぶ姿、保育者の援助や言葉掛けなど活発に話し合うことが出来た。

### 【スーパーバイザーの先生からのアドバイス】

- ・前回の意見を取り入れていたのがよかった。
- ・それぞれの園や職員に伝えていくことが大切。
- ・司会からの質問や投げかけがあったほうがよかった。

### 【反省・課題】

- ・遊びは大きく3つに分けたが、ごっこ遊びの中でもいくつかに分かれていて、それらの場面も捉えて話ができただのは良かった。
- ・前回の講評で、「必ずまとめなくてもよい、子どもの姿を出すことが大事」と話していただいて、人の話をまとめることに苦手意識をもっていたので、少し肩の力を抜いて取り組むことが出来た。
- ・実践検討会においては、ポストイットを使わなくても活発な意見が出ることを実感しつつ、園内外のカンファレンスではポストイットが話し出すきっかけになるとも思った。

- ・見てもらいたい視点の3つを(A)(B)(C)と表示すると言ったが、書記に任せてそれに対する投げかけや確認がカンファレンスの中で出来なかった。
- ・「明日につながるヒント」という点が弱かったが、最後に就学前に向けての課題につながる意見が出たのは良かった。
- ・園内のカンファレンスでもいろんな視点から子どもの姿を出し合えるように和やかな雰囲気を大切に、みんなが「できてよかったな」と思い、明日からの保育に繋げていけるようにしていきたいと思う。

### カンファレンスを通しての学び、気づき（こどもの姿の捉え方、協議内容について）

- ・実施園側の見て欲しい3点をA・B・Cに分け、カンファレンスで出てきた子どもの姿について記録を取りながら、それがA・B・Cのどれに当てはめられるかを意識して記録をとった。
- ・「どんぐり転がし」を真ん中において（遊びの拠点として）活動すると自然と子ども同士が交わる機会があるのではないかと話し合った。今後、年長児として就学に向けて友達との関わりを増やしていく時期だと思うので、5歳児としての拠点を作り保育環境によって隣の遊びとつなげていく工夫が大事である。
- ・5歳児の3期の子どもの姿を始めに確認したことや数多く展開されていた遊びを「ごっこ遊び」「つくってあそぶ」「ドングリ転がし」と大きく3つに分けたことは、振り返りやすかった。
- ・それぞれの遊びについて、子どもの姿・環境・援助を振り返る中で、着目点(A・B・C)について枝分かれという形で話を進め、記録をしていく事は視覚的にも分かりやすかったが、途中で着目点を振り返りながら進めた方がより深く子ども達の姿を捉えられたと思う。
- ・「転がし」という遊びの中でも、一人一人の子どもによってめあてが違う様子が見られたが、それぞれが居場所となり遊びを進めていた。5歳児の3期の特徴にもある、「一人一人が自信をもち、一つの目的に向かってクラスやグループで取り組むことで仲間意識が芽生える時期」を意識するためには、一人一人の遊びに配慮しながらもそれぞれの「転がし」を繋いでいく声かけがあればよい等、明日につながるヒントについても語り合うことができた。
- ・始まる前に、簡単にクラスの様子を聞いた上で、実際にクラスの様子を見せて頂いたことは良かった。
- ・今回は、子どもの捉えの中で、前回とはまた違った姿をアドバイザー間で話し合うことができ、また共有することができてよかった。
- ・視点を3つに絞っていたことで、意識しながら子どもの姿をみることができた。しかし、自身がカンファレンスの時に感じたのは、前回の視点を今回も継続しつつも、前回以上に深く子どもの姿を捉え、もっと子どもの姿を深堀する機会になったのではないかと感じた。

今後現場でどのように活かしていくか
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自園でも振り返りは「昨日はこうだったのに、今日は〇〇だったね。次はどうしていきたい？」など遊びが昨日から今日、今日から明日へとつながっていく声掛けが大事であることを伝えていきたい。</li> <li>・製作時は机が必要になるが、ある程度作品が出来てくれば、机を片付けて、作品を使って床でも遊ぶことができるような空間が必要である。空間をつくることで遊びが広がり、隣のごっこ遊びとのつながりが出来るようになるのではと、今後ヒントを伝えていきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンファレンスの記録は、途中でボードなどに貼ることで、整理をしながら進めていくことができるので活用したい。</li> <li>・話しやすい雰囲気づくり、意見を共感する姿勢、まとめるのではなく、問いに対して語り合うことを大切にしていきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回も司会の先生がとても話しやすい場の雰囲気を作ってくくださったので、とても活発な意見の交換ができたと感じた。自分自身が進める時にも、参加者の意見を引き出し、その都度話の論点、視点がぶれないように軌道修正して、その上で自分の意見もはさみながら深く話が出来るようにしていきたい。</li> <li>・記録と意思疎通しながら進めていくことは、参加者が話しやすい場をつくることのできるので、次回の実践検討会に活かしたい。</li> <li>・1回目の記録を今回持参しなかったのだが、次回は、記録を持参して1回目と2回目の記録の取り方についても振り返り、どのような違いがあり、より分かりやすくできるかにも着目できる。</li> </ul>
講評より学んだこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンファレンスの途中でこれはA・B・Cのどれにあたりと考えるかを司会者が参加者に振っても良い。前回のカンファレンスのアドバイスを活かしている。回数を重ねることでカンファレンスの進め方が上手になっていくので、今回よかったところを次回につなげて行ってほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイントを押さえながら話し合うことの大切さ。途中、着眼点について、確認をしながら進めていく事でより良いカンファレンスとなること。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目の実践検討会での経験を2回目につなげようとする姿勢が多く見られて、その積み重ねが大事であるという評価を頂いた。今後も積み重ねていき、子どもの姿をさらに深く読み解き、意見交換がたくさんできるカンファレンスの場を作っていきたい。また、自身がこの場で学んだことを実践で活かしていくことが大事だということも十分に感じた。</li> </ul>
グループで検討した協議方法について良かった点や反省点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回もポストイット無しで実施することで話をする時間を多くとることができた。また、自由選択活動の中でいろいろな遊びがあるが、3つに絞ることで一つ</li> </ul>

の事柄を深く話すことができた。

- ・実施園の見てもらいたい視点「(A) 好きな遊びを遊び、意欲的に遊ぶところ」、  
「(B) 友だちや保育者に自分の思いを伝え、会話しながらそれぞれの思いを取り入れて遊んでいるところ」、「(C) 自分なりに工夫したり、試したりしている姿」をそれぞれに記号をつけることで、子どもの姿の捉えが何に繋がっているのかを見とることができるようにした。前回助言していただいたように、カンファレンスに正解はないので、記録者がA・B・Cを記入だけでなく、参加者がこれは「Aにもなるのでは」等、意見をもらう機会があっても良いと思った。

幼児教育アドバイザー講習「実践検討会」 記録用紙			
9月29日(木) 5歳児 研究主題「子どもと子ども、保育者と子ども、みんながつながる楽しさを感じるために保育者ができることを探る。」			
番 目 点	好きな遊びを遊び、意欲的に遊ぶところ	友だちや保育者に自分の思いを伝え、会話しながらそれぞれの思いを取り入れて遊んでいるところ	自分なりに工夫したり、試したりしている姿
子どもの姿			
環境			
援助			
明日につながるヒント			

一人づつが自信をもち、一つの目的に向けてクラスやグループを取り組むことで仲間意識が芽生える時期

好きな遊びを遊び、意欲的に遊ぶところ **A**      友だちや保育者に自分の思いを伝え、会話しながらそれぞれの思いを取り入れて遊んでいるところ **B**      自分なりに工夫したり、試したりしている姿 **C**

**ごっこあそび**

役割り分担の出来た子への意見  
味も種類、見られる位置と生活  
体験の量とあり → 見られ遊べている **A**  
テイクアウトの雰囲気を作った  
雰囲気を作った → 中身の作り **C**  
せしめとボーン作り → 分けて交代  
かばん中の小道具(ボーン作り) → 本物感と出  
友達に伝えたい **A**

**ついであそび**

**産** ハロエと作り出し、箱の中に入れて確認  
元はボーン作りと遊んで **B**  
南側の子 → 見出し **C**  
ボーン作り → 友達と共有した **B**  
黙って遊んで遊んで **A**  
作っては友達と一緒に遊んで  
保育士、この作り、友達の友達と  
音声が揃う、ボーン作り、以前は  
意図して作り遊んで **B**

**ドングリ転がし**

最初は、転がらぬ... 友達と遊ばせたい  
最初は、友達と近くにおく  
自分では、2-3個ずつ転がして、何回も **A**  
先ず、転がし、声を出して **B**  
→ 友達と一緒に遊ばせたい **B**  
→ 友達と一緒に遊ばせたい **B**  
友達、同じ場所、共有して **A**  
支援、必要の子が自然と集まっていた **A**  
個々の、意図的に遊んでいた **A**  
数回、個々の → ドングリ転がし  
**遊び場空間**  
寂しかった時、子に笑顔の子がいた。  
無理にせよ、保育者の声かけ **B**  
とんりの転がらぬ... を考えて作り遊んで **C**

**狂った細い、おどろきの子**

おどろきの子、おどろきの子、おどろきの子  
おどろきの子、おどろきの子、おどろきの子

おどろきの子、おどろきの子、おどろきの子

おどろきの子、おどろきの子、おどろきの子